

年末年始の学生スポーツ

大学

駅伝

男子の東京箱根間往復大学駅伝競走は2日と3日の2日間、21チームが出場して東京・大手町から神奈川県箱根町までの往復（10区間、217.1キロ）で行われ、往路優勝の駒沢大が10区間合計タイム10時間47分11秒で2年ぶり8度目の総合優勝を遂げた。駒沢大は昨秋の出雲駅伝、全日本大学駅伝と合わせ、史上5校目の大学駅伝3冠を達成した。中央大が1分42秒差の2位、連覇を目指した青山学院大は3位。

勝を果した駒沢大は、2位に30秒差でスタートした復路でも差を広げ、首位を譲ることなく逃げ切った。駒沢大は往路も復路も制しての完全優勝。10区の青柿響選手は「9人の選手が競り合いで負けず、頑張った。みんなに感謝したい。自分たち3年生が引っ張って、次も3冠できるように頑張りたい」と来年に向けて抱負を語った。

全日本大学女子選抜駅伝は12月30日、静岡・富士山本宮浅間大社前から富士総合運動公園陸上競技場までの7区間、43・4キロのコースに24チームが参加して行われ、名城大が2時間21分56秒で5連覇を果たした。昨年10月の全日本大学女子駅伝と合わせた2冠も5年連続。大阪学院大が2位、日本体育大が3位。名城大は1区で柳楽あずみ選手が首位に立ち、3区の米沢奈々香選手が区間新記録をマークするなど最終走者までトップを維持し、2位に3分以上の大差をつけた。

ラグビー



第4クォーター、タッチダウンを決める関学大の前島仁選手(中央)

全国大学選手権は8日、東京・国立競技場で決勝が行われ、帝京大が早稲田大を73-20で下し、2年連続11度目の優勝。計11トライを奪う大勝で、決勝での73得点、53点差はいずれも史上最多だった。帝京大の松山千大主将は来季3連覇に挑む後輩たちに「どれだけ相手よりハードワークができるか。その部分は分かっていると思う」と期待を口にした。

アメリカンフットボール

全日本大学選手権決勝「甲子園ボウル」は12月18日、兵庫・甲子園球場で行われ、関学大（関西）が早稲田大（関東）に34-17で快勝し、5年連続33度目の優勝を飾った。司令塔役で勝利に貢献した3年生の鎌田陽大選手は「オフエンス（攻撃）として、いい結果を出せた」と会心の笑みを浮かべた。



胴上げされる駒大の八木弘明監督【代表撮影】



5連覇を遂げた名城大の選手と米田勝朗監督(右端)

サッカー

男子の全国高校選手権は9日、東京・国立競技場で決勝が行われ、岡山学芸館（岡山）が東山（京都）を3-1で下し、岡山県勢として初の全国制覇。東山の初優勝はならなかった。岡山学芸館は同点で迎えた後半、木村匡吾選手が2ゴールを挙げた。木村選手は「実感が湧かない。うれしい気持ちが一番強い」と話した。女子の全日本高校選手権は8日、ノエビアスタジアム神戸で決勝が行われ、藤枝順心（静岡）が十文字（東京）を1-1

バスケットボール

0で破り、2大会ぶり6度目の優勝を果たした。全国高校選手権は12月28日と29日に東京体育館で男女の決勝が行われ、女子は京都精華（京都）が札幌山の手（北海道）に99-81で勝ち、初優勝した。夏の全国高校総合体育大会と合わせ2冠。ナイスエリヤ出身の留学生で身長188センチのイゾジェ・ウチエ主将が、両チーム最多の35得点の活躍を見せ、「もっとと走れる選手になりたい。主将になれて良かった」と話した。

ラグビー



前半、トライを決める東福岡の右原幹士選手(手前)

全国高校大会は7日、大阪・花園ラグビー場で決勝が行われ、東福岡（福岡）が報徳学園（兵庫）に41-10で快勝し、6大会ぶり7度目の優勝を遂げた。前半を12-7で折り返した東福岡は、後半に2点差まで迫られたが、その後は4トライを奪って突き放した。大川虎拓郎主将は仲間と抱き合って喜び、「重圧はあったが、目標を達成できてうれしい」と話した。

バレーボール

全日本高校選手権は8日、東京体育館で男女の決勝が行われ、女子は古川学園（宮城）が誠英（山口）に3-2で競り勝ち、23大会ぶり4度目の優勝。中盤までの劣勢を跳ね返した熊谷仁依奈主将は



第4セットでスパイクを決める関学大の佐藤選手(左)



第4セットにスパイクを放つ古川学園の阿部明音選手(左)

「攻撃を、決めてくれた仲間に感謝しかない」と語った。男子は第1、2セットを落としかつた駿台学園（東京）が鎮西（熊本）を3-2と逆転し、6大会ぶり2度目の頂点に立った。

サッカー男子は岡山学芸館、バスケット女子は京都精華がともに初優勝

駒沢大が箱根駅伝で8度目の総合優勝
ラグビーは帝京大が連覇
甲子園ボウルは関学大が5連覇